

博士論文執筆のために必要なこと

庵 功雄

isaoiori@courante.plala.or.jp

1. 博士課程とは

- ▶ 博士課程は「研究者」(または、「高度な専門知識を有する職業人」)を養成する場所である
- ▶ 博士課程を修了した人は、原則としては、アカデミックなキャリアに就く(しかない)
- ▶ 少なくとも現在の日本では、博士課程を修了した人は「つぶしが利かない」
- ▶ →博士課程在籍者、博士課程進学希望者はこれらのことを自覚しておく必要がある

2. 研究者に求められる資質

- ▶ 研究者(学者)は「やくざな仕事」である
- ▶ →「国語学などというものは、多くの人命を救うとか、社会に多大の使益をもたらすとかいったような、直接的に有用なものでは決してない。にも拘わらず、自分の好きなその学問をこととして安穩に日々が送れるのは、いわゆる世間様、お天道様のおかげです」(川上夔)
- ▶ なぜ、研究者(学者)が存在できる(=世間からその存在を許されている)のか
- ▶ →世間の人々の代わりに、考え続けているからなのでは？

2. 研究者に求められる資質

- ▶ 研究者にとって、最も重要な資質は、自分の研究テーマについて考え続けられることである。それに加えて、そのことを考えることが楽しいと思えることである
- ▶ この点で、研究者は芸人と非常によく似ている

3. 博士論文を書くために必要なこと

- ▶ 1. 自分の研究テーマについて、あらゆる先行研究を読み尽くす(気で先行文献を探して読む)
- ▶ cf. 渋谷(1988)

3. 博士論文を書くために必要なこと

- ▶ 2. 自分の研究分野のいい論文をたくさん読む
- ▶ cf.「英借文」
- ▶ →研究に関する「地頭(じあたま)」を作る

3. 博士論文を書くために必要なこと

- ▶ 3. 「身銭を切って」資料を集める
- ▶ 本は可能な限り、買って読む。もし買えないのなら、図書館にこもって読み切る(コピーをしただけではダメ)
- ▶ 一橋の第二部門は、「日本一」(日本語の研究においては「世界一」)の研究環境にある

3. 博士論文を書くために必要なこと

- ▶ 4. 考えたことを他の人に話してみる
- ▶ 他の人に説明することで、自分の中の考えが整理される。
また、議論の穴も見つかる

3. 博士論文を書くために必要なこと

- ▶ 5. 論文の形で書いてみる
- ▶ 論文を書くための最善（唯一？）の方法は、論文を書くことである
- ▶ 論文の形にしたら、必ず、他の人に読んでもらって意見を聞くこと

3. 博士論文を書くために必要なこと

- ▶ 6. 論文(文章)は読者との対話である
- ▶ 論文は、究極の「自己完結型テキスト」(庵2007)である。したがって、全てのことがらは論文の中に書き込まれていなければならない(引用を含めて)
- ▶ 論文の内容が論文(テキスト)の中で「閉じている」かどうかをチェックすることが必要。このとき、他者の目が重要になる

3. 博士論文を書くために必要なこと

- ▶ 7. 真正性 (authenticity) と理論を追求する
- ▶ 故ネウストプニー先生は、常に「真正性 (authenticity)」の重要性を説かれていた。
- ▶ また、「博士論文には「理論」が必要」ということも説かれていた。
- ▶ →「なぜ、そうなる(はずな)のか？」を考える

4. 研究のためのヒント

- ▶ 1. 気がついたことは何でもメモしよう
- ▶ 枕元にメモを置く
- ▶ Evernote (<http://evernote.com/intl/jp/>)
- ▶ プレミアム版がおすすめ(年間4000円)
- ▶ タグをつけて情報を管理する
- ▶ Dropbox

4. 研究のためのヒント

- ▶ **2. 他の人に「説明」できるかを常に考えよう**
- ▶ ある文法形式、語彙項目の意味や用法を「他の人(母語話者、学習者)に説明できるか」を常に考える。そうすると、今まで、「何となく」わかっていた(わかったつもりになっていた)ことが実はわかっていなかったことに気づく
- ▶ 誤用例に気がついたら、「なぜこの間違いをしたのか」を考えてみる
- ▶ →こうした関心を持った上で先行研究を読むと、その中に今まで気づけなかったことを発見することができる
- ▶ cf. 「i+1」のインプット

4. 研究のためのヒント

▶ 3. 外国語に直訳してみよう

- ▶ ある日本語の言い方を別の外国語に直訳してみる。そうすると、その訳が不自然であったり、訳せなかったりすることがあることに気づく。特に、日本語非母語話者の人は、自分の母語と日本語を常に直訳して考えるとよい
- ▶ ex. (トイレの掲示)
- ▶ センサーに手を近づけると、水が流れます。
- ▶ 手接近此処時、水自動流出。
- ▶ (飛行機のアナウンス)
- ▶ シートベルトサインが消えるまで、お立ちにならないでください。
- ▶ Please remain seated until the captain turns off the seatbelt signs.

5. 投稿論文を書くために必要なこと

- ▶ 1. 要旨は最後に書く
 - ▶ →要旨を読めば、採否がほぼわかる
- ▶ 2. 具体的な問題意識を最初に書く
 - ▶ →査読者は忙しい、査読はボランティア
- ▶ 3. 先行研究は最低限でよい
 - ▶ →クロスリファレンスを守る
- ▶ 4. 自分の論文は必ず引用する
 - ▶ ←査読は完全「覆面」制
- ▶ 5. 書式を守る
 - ▶ →特に、図表の文字が読めるかを確認する

6. 口頭発表要旨を書くために必要なこと

- ▶ 1. 題目をよく考える
 - ▶ →聴衆が聴きたくなるように
- ▶ 2. セールスポイントを明確にする
 - ▶ →新規性は何かをアピールする
- ▶ 3. 先行研究は必要最低限に絞る
 - ▶ →クロスリファレンスを守る
- ▶ 4. 字数制限を守る
 - ▶ →限られた字数の中でいかに自分の主張を伝えるか

7. 再び博士論文を書くために必要なこと

- ▶ 学問に王道なし
- ▶ 「学ぶ」は「まねぶ」
- ▶ 「根・鈍・運」(庵2013)
- ▶ Practice makes perfect.

参考文献

- 庵 功雄(2007)『日本語研究叢書21 日本語におけるテキストの結束性の研究』くろしお出版
-
- 庵 功雄(2013)『日本語教育、日本語学の「次の一手」』くろしお出版
- 庵 功雄(2016)『やさしい日本語—多文化共生社会へ』岩波書店
- 庵 功雄(2017)『一歩進んだ日本語文法の教え方I』くろしお出版
- 渋谷勝己(1988)「中間言語研究の現状」『日本語教育』64
- 本田弘之・岩田一成・義永美央子・渡部倫子(2014)『日本語教育学の歩き方』大阪大学出版会

参考URL

- 庵 功雄(2018b)「新聞記事の見出しに見られる「誘導性」に関する定量的考察：朝日新聞の場合」『人文・自然研究』12、一橋大学
- <https://hermes-ir.lib.hit-u.ac.jp/rs/handle/10086/29103>
- 庵 功雄(2018a)「「ことば」から見た他者との対話」『Graphication』14、富士ゼロックス
- <https://graphication2.s3.amazonaws.com/html/014/index.html#/spreads/20>
- 庵 功雄(2016)「宮島達夫先生の思い出」『計量国語学』30-4
- <http://www12.plala.or.jp/isaoiori/miyazima1.pdf>
- 庵 功雄(2015)「ネウストプニー先生の思い出」大阪大学文学部日本語学講座同窓会報
- <http://www12.plala.or.jp/isaoiori/neus.pdf>